

学校長



横浜 f カレッジ

令和 6 年度学校関係者評価委員会報告書

1. 学校関係者評価委員会実施要領

日 時	令和 7 年 7 月 23 日 (水) 10:00~11:10		
場 所	Zoom を利用したオンライン開催		
出席者	学校関係者評価委員	井上 弥生	花王株式会社 化粧品事業部門ビューティリサーチ&クリエイション部 部長
		大谷 晃	NPO 法人日本ホテルレストラン経営研究所 理事長
		久保 雅裕	一般社団法人東京ファッションデザイナー協議会 代表理事・議長
		馬中 菜緒	株式会社 intersection 企画部長
		吉原 直樹	株式会社 アルテ ジェネシス 代表取締役会長 CEO
	教職員	岩崎 有紀子	横浜 f カレッジ 学校長
		小松 加代子	横浜 f カレッジ グループ長
		角館 裕美	横浜 f カレッジ 教務チーム グループリーダー
		多賀 智章	横浜 f カレッジ 経営管理チーム サブリーダー
		別所 慶子	横浜 f カレッジ 教務チーム 課長補佐
		佐々木 睦美	横浜 f カレッジ 教務チーム 課長補佐
		三船 澄人	横浜 f カレッジ 教務チーム 主任
		前川 竜也	横浜 f カレッジ 教務チーム 主任 (議事録)
		松本 みづほ	横浜 f カレッジ 教務チーム 副主任
		松本 太一	横浜 f カレッジ 教務チーム 副主任
		大瀬 三香子	横浜 f カレッジ 教務チーム 教員
資 料	・ 令和 6 年度自己点検評価表 ・ 令和 6 年度自己点検評価報告書		

2. 自己点検評価報告および各項目に対する学校関係者評価

2-1. 教育理念・目標

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
・理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校における職業教育の特色は明確か ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	(1) 教育理念・目標 本校は、学校法人岩崎学園の理念である「人材育成を通じた地域社会への貢献」のもと、①感性の向上 ②高度な技術力の習得 ③豊かな人間性の涵養 ④プレゼンテーション能力の育成の4つを教育目標に掲げ、ファッション、美容、ブライダル分野の人材育成に取り組んでいる。 (2) 将来構想へ向けた体制 岩崎学園 100 周年を見据えて策定された中期事業計画に基づき、学園本部および姉妹校を横断するプロジェクト（IR 推進委員・DX 推進委員・キャリア開発推進・教育環境整備等）が活動。本校からは、若手、中堅教職員がプロジェクトメンバーとして積極的に参加し、新しい教育の立案推進に携わっている。	<教育理念・目標> ・大学との差別化という点も課題ではあるが、どの分野も「課題解決に役立っているか」という視点を根幹に、社会で求められる人材育成に貢献できるよう取り組んでいく必要がある。 ・ファッション分野において、日本は技術本位な教育に偏りがちだが、抽象的なアイデアを具体化できるクリエイションを身につける事ができるカリキュラムを整備していくことが必要 <将来構想へ向けた体制> 特になし

2-2. 学校運営

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・事業計画に沿った運営方針が策定されているか ・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・人事、給与に関する制度は整備されているか ・教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務効率化が図られているか	(1) 運営方針 理事会での学校運営に関する根幹の決定に基づき、3つの重点実施項目を策定し教育活動を実施。リーダーを軸に効率的な学科運営を行う目的で設置した学科別業務グループについて、学校目標からブレイクダウンされたグループ目標が明確化され、組織的に業務遂行が行える体制となっている。また、事業計画は、個人の業務計画・目標に落とし込み、期首・中間・期末での振り返りを実施。成果の見える化を基準にグループリーダーと面談を実施し、教職員の育成にも傾注した。一方で、後継者となる管理職の育成が課題。組織的な取り組みが急務。 (2) IT ツール活用による教育のDX化と業務の効率化 Swipe Video（自由視点映像ソリューション）を全学科で導入。学科による活用頻度、クオリティにバラつきが見られたが、今年度新設のヘアメイク・アイデザイン科においては、美容師国家試験実技試験課題のコンテンツを作成し、授業内および予習復習に活用。校務負担軽減ならびに業務	<運営方針> 特になし <IT ツール活用による教育のDX化と業務の効率化> AI 活用で効率的に答えを導き出せる時代であるが、人とリアルな接点を持つことは非常に重要な事である。企業と教育機関の協業という点において、双方にメリ

	効率化のため、年間のタスクスケジュール表を作成し作業の見える化を推進している。 (3) 働き方、健康管理 募集活動等に係る休日出勤については、振替休暇の取得が比較的しやすいよう、引き続き半日勤務を推奨。学内に衛生委員を置き、学園本部と連携しながら教職員の健康管理、校内環境、教室環境の改善に努めている。	ットのある取り組みを実施していくことが、新たな視点を持つきっかけになる。 ＜働き方、健康管理＞ 特になし
--	---	--

2-3. 教育活動

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	(1) 教育課程の編成・実施方針 教育理念・目標を具現化するためアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーをベースに、「学科グランドデザイン」「カリキュラムグランドデザイン」「シラバス」を作成。学科にかかわる常勤・非常勤を含めた教員で共有し、教育内容の明確化と科目横断的な教育効果の向上を図っている。年2回の本校教育分野関連の業界団体・企業等の有識者による「教育課程編成委員会」や、産学連携の取り組みを通して、グランドデザイン、シラバスの見直しを行い、産業動向や企業ニーズに合わせた教育を推進している。 (2) 魅力的なカリキュラムの構築 産学連携やインターンシップなど、学外との連携で実践的な学びを体感できる場を提供。また、全ての学科で新規連携を実施。美容系学科では海外（韓国）からもアーティストを招聘し、楽しい学びを体感できるよう、学生に関心の高い技術のデモンストレーションや海外での業界動向等について学ぶ機会とした。 (3) 令和7年度に向けた、学科カリキュラムのブラッシュアップ 令和7年度の展開に向け、①学生に分かりやすく②時代の変化の中でも通用する、③学生と教務双方にとって効率的で運用しやすい等を目的にカリキュラムのブラッシュアップに着手。最新技術やトレンドを存分に盛り込み実践的な授業が展開できるよう、教職員の外部研修も奨励。	＜教育課程の編成・実施方針＞ ・専門学校は期中に関係なく、ニーズに合わせたカリキュラムを迅速に反映できるため、そこを活かし、校外授業や業界セミナーなど、今後も柔軟に対応していくことを求める。 ・社会には多様な価値観や背景を持つ人が存在するということを学生時代に認識させるために、社会のリアリズムに触れる機会を積極的に設けることが必要。 ＜魅力的なカリキュラムの構築＞ ・実社会との接点を拡大するため、第一線で活躍している方の知見を学校教育の中に積極的に取り入れることも必要であり、特別授業や校外授業の実施など、実践的な学びの機会を多く創出することも必要。 ＜令和7年度に向けた、学科カリキュラムのブラッシュアップ＞ ・教員の業界理解を深め、卒業生や企業と連携した授業やインターンシップを実施することで、幅広い職種や様々な企業があることを伝えることができる環境を整え、進路の選択肢を広げていくことを求める。

・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか	(4) 産学連携・インターンシップの体系化 以下、連携事例について詳細を報告 ・企業提示の課題による産学連携 —昨年に引き続き、横浜高島屋とアーリーマウンテンワークスの連携により、害獣（猪・鹿）の革を使用したレザーアイテムの商品開発を行った。 —横浜高島屋・フェリス女学院・横浜ジョイナスと協力しサステナブル素材を使用したスタイリングショーを実施。 —企業との協業による結婚式プロデュース —「サステナブルプロジェクト Sustainable Uniform Design Award 2025」にて、FLD 学科学生のデザインがグランプリを受賞。OPA、VIVRE、FORUS のインフォメーションにて着用。 ・現代の抱える課題や社会貢献につながる取り組み —SDGs の観点からリメイク・アップサイクル商品の展示販売を実施 ・企業によるイベント協力等での地域振興への協力 —地元スポーツチームの試合時の応援イベント支援 (5) 教員研修 専門性を高めるための研修と教授法や学生指導に関する研修を実施。令和 4 年度より設置されたキャリアアップ支援制度により 8 名が新しい資格を取得。多様化する入学者の学生指導をスムーズに行うため、本校カウンセラーによる「学生指導のポイント」をテーマに研修を実施。メンタル面や発達障害が疑われる学生への適切な対応について学びを深めた。	<産学連携・インターンシップの体系化> ・企業と教育機関が互いにメリットを享受できる関係構築が重要である。 ・地域に根付いた学校運営をしていくには、その地域の企業リサーチをし、業界動向をしっかりと把握しておくことも重要。 <教員研修> 特になし
--	--	---

2-4. 教育環境

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	(1) 施設・設備 前年度に引き続き、すべての学科で学生にノート PC を貸与。自宅でオンライン授業が受講できる体制を整えている。また、学内に個室型ワークブースを 3 台設置し、就職活動におけるオンライン面接等に活用した。	<施設・設備> 特になし

2-5. 成果

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	(1) 内部特待生制度 学園全体の専門学校から、令和 6 年度は 13 名の進級学生を内部特待生として選出した。 (2) 就職実績 企業と就職指導職員、教員が連携し学生の活動をサポート。令和 6 年度は、就職活動の二極化が顕著に表れ前年比マイナスとなった学科もあった一方で、メイク関連企業への就職者が 100%と好調であった。 【令和 6 年度就職実績】 ・就職内定率：97.6%（就職希望者 291 名、就職者 284 名） (3) 時代ニーズへの対応 アパレル業界の DX 化に対応し、令和 4 年導入の 3D モデルスト育成教育では 3 級合格率 75%とトップクラスの結果を出した。また、美容の多様化に対応するべく施術者向けに創設したメンズヘアメイク検定は 3 年目を迎え、全学科に受験対象を拡大する。 (4) 資格取得・コンテスト 専門知識と技術の確実な習得を目指し、カリキュラムに資格取得を計画的に組み込むことで、合格という達成感を体験し、次のステップへの意欲醸成につなげている。 ①美容師国家試験合格率 92.4% ②ジュウエム マイカッパ 技術検定試験 合格率 100%。 ③サービス接遇検定準 1 級合格率 100%（ブライダル科） ④洋裁技術検定中級合格率 100%（ファッションライフデザイン学科） ⑤色彩技能パーソナルカラー検定モジュール 1 合格率 100%（ファッションライフデザイン学科） (5) 退学者 ・退学率 11.5%（前年 13.2%） 精神疾患による退学が約 1/3 を占めるため、スクールカウンセラーの活用促進など、さらなる対応強化を進める。	＜内部特待生制度＞ 特になし ＜就職実績＞ 学生の多くは視野が狭く、希望職種でなければ就職しないという偏った考えを持ちやすい。より現実的で幅広い職業選択ができるよう指導することが必要である。業界動向や企業の実情を把握することで、学生の適性と企業ニーズをマッチングさせる就職支援体制を整えていくことが必要。 ＜時代ニーズへの対応＞ 少子化の影響によりブライダル業界では挙式件数や一組あたりの人数が減少。こういった中でも成長している企業の新たな取り組みや多様な職種の存在について伝えていくことで業界全体の可能性を示していくことが求められる。また、こういった動向に対応したカリキュラムの実施が必至である。 ＜資格取得・コンテスト＞ 特になし ＜退学者対策＞ 悩みを第三者が受け止めてくれる、共感してくれる、いつでも相談できる環境が大事。こういった経験を学生時代にしておくと、社会に出た際も離職率の低下に繋がっていく。

2-6. 学生支援

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか ・防災に対する体制は整備されているか	(1) 学生相談 状況ごとにクラス担任、学科リーダー、専門のカウンセラーと複数人で対応をしている。 (2) 経済的な支援 ・令和2年度より始まった「高等教育就学支援新制度」の対象機関として認定を受け、学費支援策の枠を広げた。 ・給付型、貸与型と様々な支援策があり、利用者も年々増加傾向であるが、それでも経済的な苦勞を抱える学生は少ない。 (3) 保護者との連携 成績については、学校生活や就職活動についての「保護者へのお便り」とともに書面とWebシステムを使用して通知。入学ガイダンスや美容師科・ビューティーコーディネート科の保護者会、学校行事の様子などをオンライン配信。また、新設学科である、ヘアメイク・アイデザイン科については、学科の学びや次年度就職活動等を丁寧に説明するため、三者面談を実施した。 (4) 防災体制 激甚災害行動マニュアルを策定し運用。スラックを活用し、台風・降雪等の荒天時の教務部判断を設けて対応。	<学生相談> 特になし <経済的な支援> 特になし <保護者との連携> 特になし <防災体制> 特になし

2-7. 学生の受け入れ募集

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか	前年度に引き続き、対面とオンラインのオープンキャンパスを併用しながら学生募集活動を展開。令和7年度の入学生は453名(前年：436名)。	特になし

2-8. 財務

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか	財務基盤は安定しており、継続的な学校運営に問題ない状況である。	特になし

2-9. 法令順守

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか ・自己評価結果を公開しているか	学校の設置や運営に関する法令は遵守しており、神奈川県 の認可を受けている。毎年、学則、カリキュラムの届出 と学生数、教職員状況、卒業生状況等の報告を行っている。 個人情報保護については、本学園ホームページで公開して いる個人情報保護方針に則り行っている。 平成 25 年 3 月に文部科学省により出された「専修学校に おける学校評価ガイドライン」に則り、自己評価を実施。 ホームページ上で公開するとともに、学校関係者評価委員 会を開催し、専門的かつ客観的な意見を聴収した。また、 議事録をホームページ上で公開した。	特になし

2-10. 社会貢献・地域貢献

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献 を行っているか ・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含 む）の受託等を積極的に実施しているか	(1) 学校の教育資源や施設を活用した社会・地域貢献 本学園の姉妹校とも連携しながら、地元プロスポーツチ ームや地域イベントの活動に参加し、日ごろの学習成果を披 露しながら地域社会に貢献。学生主体で立ち上げたサーク ル活動などを通じて、社会貢献や地域貢献の活動の企画か ら実行までを継続的に行うことが課題。 (2) 地域に対する公開講座・教育訓練の実施 高校生向けキャリア講座（仕事の学び場（5 講座 113 名）、 総専協夏期講座（2 講座 33 名））の受け入れを行った。	<学校の教育資源や施設を活用した社会・地域貢献> 都内と地元サロンでは職場環境や価値観が異なるた め、地元志向の学生に対しては、横浜を中心とした現 場実習を活用するなどし、地域に貢献できるような人 材育成につなげていく <地域に対する公開講座・教育訓練の実施> 特になし

以上

教務部長	作成者
	